

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)レーベン土呂町2丁目 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄				評価点		重み係数		全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数					
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-					<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00					<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50					
1.2 遮音		-	-	<b>3.6</b>	0.50					
1 開口部遮音性能	サッシの遮音等級を「T-2」等級とした	-	-	<b>5.0</b>	0.30					
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20					
1.3 吸音		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-					
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00					<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00					
1 室温		<b>3.0</b>	0.63	-	-					
2 外皮性能		<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	1.00					
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	-	-	-					
2.2 湿度制御		-	-	-	-					
2.3 空調方式		-	-	-	-					
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.2</b>	1.00					<b>3.2</b>
3.1 昼光利用		-	-	<b>3.5</b>	0.50					
1 昼光率	昼光率を1.5%~2.0%になるように間取りを検討した。	-	-	<b>4.0</b>	0.50					
2 方位別開口		-	-	<b>3.0</b>	0.30					
3 昼光利用設備		-	-	<b>3.0</b>	0.20					
3.2 グレア対策		-	-	<b>3.0</b>	0.50					
1 昼光制御		-	-	<b>3.0</b>	1.00					
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.38	-	-					
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.63	-	-					
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00					<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63					
1 化学汚染物質	使用材料をF☆☆☆☆とした	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00					
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38					
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33					
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33					
4.3 運用管理		-	-	-	-					
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	-	-	-					
2 喫煙の制御		<b>3.0</b>	-	-	-					
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-					<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.1</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00					<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60					
1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-					
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	1.00					
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-					
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40					
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50					
2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	-	-	-					
3 内装計画		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50					
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-					
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-					
2 維持管理用機能の確保	廃棄物等のスペースを延べ床面積に対し十分に確保した	<b>4.0</b>	0.50	-	-					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.30	-	-					<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80	-	-					
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>4.0</b>	0.30	-	-					
1 躯体材料の耐用年数	構造躯体の劣化等級を「等級3」とした	<b>5.0</b>	0.20	-	-					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル仕上(50年)とした	<b>5.0</b>	0.20	-	-					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	二種類以上のB材料使用:給水(PEP/PLP)、汚水・雑排水(VP)、空調・給排水管の判断基準のEは使用無しとした	<b>5.0</b>	0.20	-	-					
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.20	-	-					
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20	-	-					
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-					
2 給排水・衛生設備	節水型設備を採用した	<b>4.0</b>	0.20	-	-					
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-					
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20	-	-					
5 通信・情報設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-					

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1 階高のゆとり			3.0	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.91	<b>3.9</b>	0.50	-	-	<b>3.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型便器を採用した。大便器洗浄水量を4.8Lとした。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.9</b>	0.60	-	-	<b>2.9</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		躯体+軽鉄+仕上材で施工する事とし、SIを採用し内装変更を前提とし、配管・配線・は躯体及び仕上材自体に打ち込まない工法とした。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.8</b>	0.20	-	-	<b>2.8</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		サッシ・打継用シーリング材、製品安全データシートによりPRTR法の該当物質は無しとした	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>2.3</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			1.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算 62%	<b>4.5</b>	0.33	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な台数及び車路の確保とした	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	